

新型コロナウイルス感染症に関する

支援情報

小規模事業者経営持続化支援給付金

新型コロナウイルス感染症拡大(第3波)に起因して事業活動に影響を受けた小規模事業者に対し、固定経費の一部を支援します。

・対象者

中小企業基本法に基づく小規模企業者で次のいずれかに該当する者

ア：飲食店(酒類の提供を主とする宴会場やスナックなどを含む)

イ：宿泊業

ウ：理髪店および美容院並びに令和2年2月の北海道の緊急事態措置に伴う休業要請の対象となった施設で、令和2年の売上総額などが前年と比べて30%以上減少している者

エ：小規模小売店で以下の条件を満たす者で、令和2年の売上総額などが前年と比べて30%以上減少している者

①販売用店舗を有する小規模小売店業者(おおむね80㎡の店舗)

②大型店舗(資本金1,000万円以上)を除く

③新型コロナウイルス感染症拡大防止の自粛による影響が顕著である者

・給付額

対象者のうち、ア、イ、ウは、店舗などの床面積に交付基準単価2,500円/㎡を乗じて額を算出し、給付額を決定します。

	床面積の範囲	給付額
ア、イ、ウ	80㎡以下	40万円
	80㎡超～120㎡以下	50万円
	120㎡超	80万円
エ	一律	25万円

・その他

感染拡大防止対策の徹底を図るとともに非接触型のキャッシュレス決済に積極的に取り組むこと。

・申請期限

令和3年12月30日(木)まで

・申請窓口、問い合わせ

町商工会 ☎27-2456

新型コロナウイルス感染症休業支援 厚生労働省からのお願い

事業者の方へ

休業支援金・給付金の申請にご協力ください

新型コロナウイルス感染症の影響により従業員を休業(時短勤務・シフト削減を含みます)させた場合、休業手当の支払いには雇用調整助成金が活用できます。同助成金の活用で、雇用の維持に努めていただくようお願いします。一方、休業手当の支払いが困難な場合には、従業員が直接申請できる、厚生労働省から直接支給する「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金(以下、「休業支援金」)があります。従業員への周知や申請にご協力ください。

労働者の方へ

休業支援金が申請できます

新型コロナウイルス感染症の影響により休業(時短勤務・シフト削減を含みます)させられた労働者の方で、事業主から休業手当の支払いを受けることができなかった方に、国から支給する「新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金(以下、「休業支援金」)があります。

●申請期限

令和3年7月31日(土) ※休業時期により申請期限が異なります。

●要件確認・申請方法

厚生労働省ホームページ <https://www.mhlw.go.jp/stf/kyugyoshienkin.html>

●問い合わせ

新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金コールセンター ☎0120-221-276

休業支援金の申請に関連する職場のトラブル相談 苫小牧労働基準監督署 ☎0144-88-8898

49年ぶりの聖火リレー

町聖火リレー実行委員会事務局 ☎27-2495
(生涯学習課 社会教育グループ内)

6月14日に市街地を駆け抜けます

東京2020オリンピック聖火リレーが6月14日(月)に町内を駆け抜けます。昭和47年1月の札幌オリンピック冬季大会以来、49年ぶりの聖火リレーです。

昨年3月、古代オリンピック発祥の地のギリシャ・ヘラ神殿跡地で採火された神聖な火が、11人の聖火ランナーのリレーにより市街地を通過します。

スタート 12:00 役場前広場

ゴール 12:30 あつまスタードーム前広場

役場前広場とあつまスタードーム前広場では、短時間ですが町独自の催しを予定しています。新型コロナウイルス感染症の防止対策から、観覧できるのは招待者のみで、一般の方は、沿道での応援になります。

聖火リレーは、インターネットのライブ中継でも視聴できます。
(<https://sports.nhk.or.jp/olympic/torch/>)



交通規制について

聖火リレーコースは、午前11時30分から午後12時46分まで通行規制が行われ、う回路が設けられます。また、交通規制時間内のあつまバスの運行ルートも変更になり、一部、市街地のバス停が使えなくなります。

詳細は、5月末に全戸配布するチラシでお知らせします。

新型コロナウイルス感染症の対策

沿道で観覧する場合、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策から、次の事項を守ってください。沿道に過度な密が生じた場合は、聖火リレーが中止になることがあります。

- ・発熱や体調が悪い場合などは、観覧を控えてください。
- ・必ずマスクを着用してください。
- ・リレー走者が通過する時は、声を出さずに拍手などで応援をお願いします。
- ・観覧者同士で十分に距離を取ってください。



当時は振り返る
吉岡茂樹さん(69歳・豊丘)

「前の人と手や足の振り方を合わせて、隊列を乱さないように神経を使ったのを覚えています。達成感があり、今でも私の財産です。胆振東部地震から3年目になりますが、世界的なイベントの成功と、地域を盛り上げるため、町民の皆さんと一緒に応援します」

昭和47年1月27日、陸上の長距離選手で当時20歳だった吉岡さんは、800人を越える町民が見守る中、聖火リレーで随走しました。浜厚真駅前から浜厚真橋までの1.1kmをトーチを持った正走者を先頭に副走者2人、随走者10人が2列でリレーを行いました。

聖火リレー回想